

愛知県内における鳥類の経年変化（２） 特定外来生物ソウシチョウの生息状況

企画情報部 ○清水美登里 加藤景子

１．はじめに

日本には外来生物法の特定外来生物に指定されている４種の鳥類（ガビチョウ（*Garrulax canorus*）、カオジロガビチョウ（*G. sannio*）、カオグロガビチョウ（*G. perspicillatus*）、ソウシチョウ（*Leiothrix lutea*））が生息しており、原則的に飼育・輸入・野外への放鳥・販売などが禁止されている。そのうちソウシチョウは、現在関東地方（千葉県を除く）、中部地方（新潟県、富山県、石川県を除く）、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方で生息が確認されており、現在も分布を拡大している。ソウシチョウは 1980 年代から飼い鳥が野生化したと考えられ、ササ類などの下層群落が発達した森林で繁殖する。

愛知県では、1967 年度から県内各所で鳥類生息調査を行っており、ソウシチョウの生息は 2000 年度から確認され、数年で確認数が増加している。そこで、愛知県内でのソウシチョウの生息域の拡大状況を調査した。また、在来鳥類に影響を与えているかどうかを調べるため、鳥類生息調査結果をもとにソウシチョウが出現する前後で鳥類生息状況の変化を比較した。

２．調査地点と調査方法

愛知県内の鳥類生息調査の 22 地点（2010 年度現在）の調査地点のうち、ソウシチョウの生息が確認された地点をピックアップしたところ、平和公園（名古屋市）、平針（名古屋市）、茶臼山（豊根村）、段戸山（設楽町）、香嵐溪（豊田市）、県民の森（新城市）の 6 地点あった。これらの地点のうち、繁殖期に生息しているか非繁殖期に生息するかを分け、ソウシチョウが繁殖期に生息している地点について、在来鳥類への影響を調査した。在来鳥類としては、ソウシチョウと生息環境が重複すると考えられているコマドリ、コルリ、ウグイス、ヤブサメの 4 種を選定した。

鳥類生息調査では、毎月 1 回ラインセンサス法で鳥類の観察を行っており、調査ルート of 左右 25m 以内で目視またはさえずりや地鳴きにより確認した鳥類の種類と数を調査票に記録した。解析には、ラインセンサス法で記録した 1990 年度から 2010 年度までの 20 年間の調査データを用いた。

３．結果と考察

ソウシチョウは、2000 年度に県内で初めて段戸山で確認された（表 1）。段戸山ではここ 10 年で確認数が増加し、2009 年度からは年間 200 羽以上確認されている。また、2007 年度からは茶臼山や香嵐溪でも生息が確認され、茶臼山では 2009 年度から 40 羽程度確認されている。2009 年度には県民の森でも生息が確認され、昨年

度には繁殖期である初夏にも確認された。また昨年度は、名古屋市市内でも冬に確認された。このことから、県内では生息域を拡大しており、生息数も増加していると推測される。

表1 ソウシチョウの確認数の経年変化

年度 調査地点	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	観察された月 (2010年度)
茶臼山								16	33	46	40	5～11月
段戸山	1	10	60	29	96	87	103	190	196	218	224	4～11月
香嵐溪								1	11		9	4・12・1月
県民の森										7	17	5～8,11月
平和公園								5			2	11月
平針											10	1月

数字は1年間の個体数の合計

次に在来鳥類への影響を調査した。ソウシチョウが侵入して4年になる茶臼山では、ソウシチョウが確認された2007年度からコマドリが確認されなくなり、2008年度からはヤブサメが確認されなくなった。このことから、茶臼山では、ソウシチョウの侵入により、コマドリ、ヤブサメなどの藪をすみかとしている在来鳥類の生息環境が減少していることが推測される。

ソウシチョウが侵入して約10年になる段戸山では、ソウシチョウが侵入した2000年度時点では、在来鳥類の確認数に変化は見られないが、ソウシチョウが年間約200羽確認された2008年度から、コマドリ、ウグイス、ヤブサメの確認数が減少する傾向にある。段戸山は、ブナースズタケ林相となっており、調査地の広い範囲の林床がササで覆われている。そのため、侵入したソウシチョウの確認数が少ない年は、同じ生息環境を利用する在来鳥類に影響がでなかったが、ソウシチョウの生息数が多くなると、在来鳥類の生息環境を圧迫し、その結果コマドリ、ヤブサメ、ウグイスの確認数が減少していることが推測される。

今後も、ソウシチョウの愛知県全体における生息域の拡大について引き続き推移を見守るとともに、生息環境が重複する在来鳥類への影響についても観察する必要がある。

4. 謝辞

鳥類生息調査にあたっては、1967年度から日本野鳥の会愛知県支部の協力をいただいている。また、ソウシチョウの情報についても提供いただいた。ここに感謝申し上げます。